

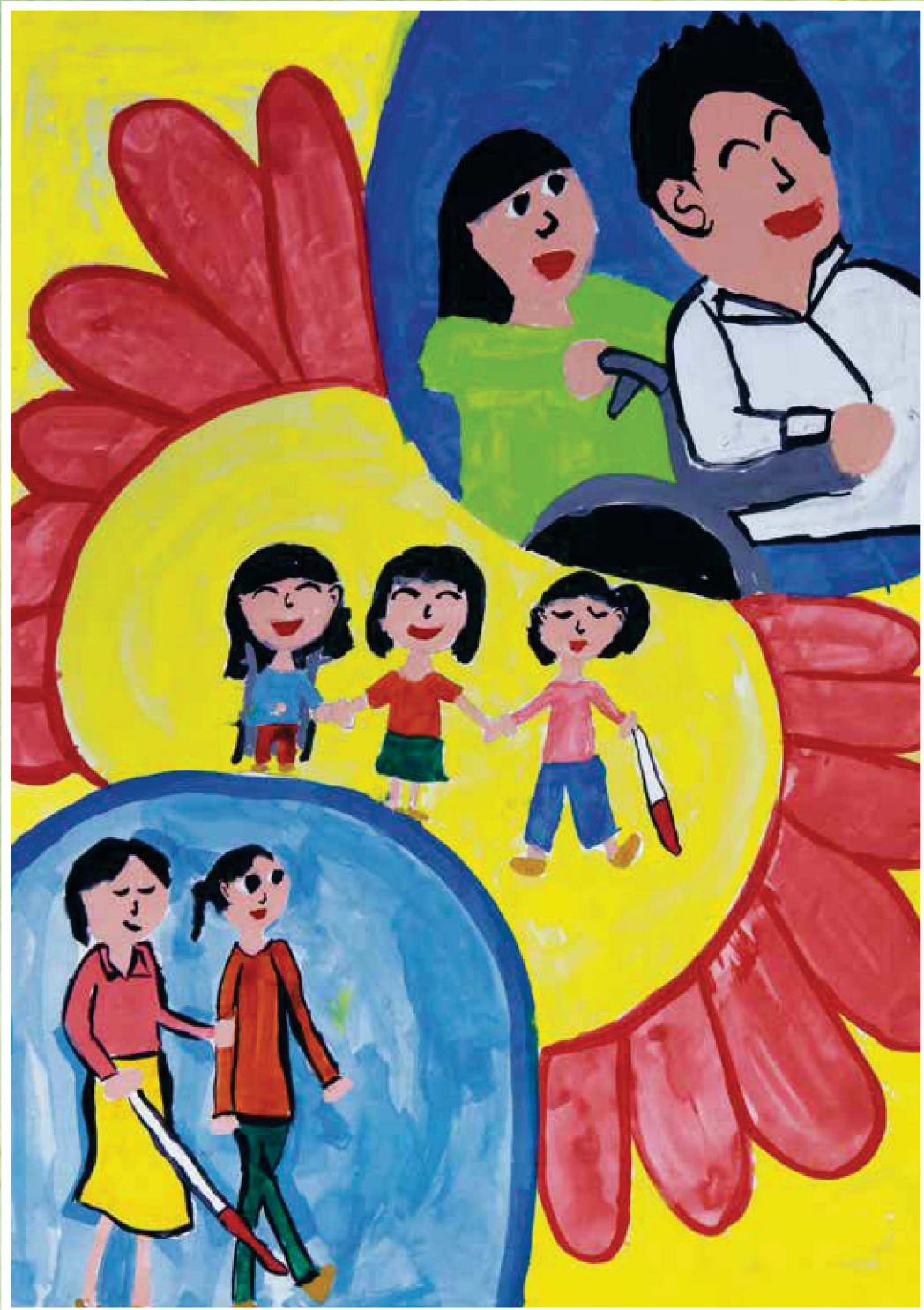
2 0 1 7

優秀作品集

心の輪を広げる体験作文・障害者週間のポスター

小学生
部門

香川県知事賞



丸亀市立飯山北小学校 三年 平井 沙樹



香川県



「しよう害って何?」

元気なおじいちゃんが、突然、しよう害者になった。「何で?」

あまりにも不思議で、ぼくは全然信じられなかった。

七月初めごろ、お母さんが、おじいちゃんの体のことを話してくれた。じんぞうが正常にはたらかなくなってしまうと、せきを受けなければいけなくなったそう。とうせきを受けようになった人は、しよう害者になるのだという。

ぼくは、これまでしよう害者というのは、手や足がなかったり、体が自由に動かせない人のことを言うのだと思っていた。

去年、リオデジヤネイロパラリンピックをテレビで見た。陸上や水泳などいろいろな競技があったが、出場していた選手たちはみんな体の一部がなかったり、車いすに乗っていたりして、自由に体を動かすことができる自分たちとはパッと見て違うことが分かった。それでも、しよう害があるとは思えないくらいの動きをしていて、びっくりし、努力すればどんなことでもできるよくなるということを感じたのを覚えている。

でも、おじいちゃんの話はそれとは別だ。

「見た目が普通なのにしよう害者って言うのはおかしい。」とむきになったぼくに、お母さんは、

「周りに気づかれないだけで、目に見えないしよう害をかかえた人は少なくないと思うよ。」と言った。

そこで、目に見えないしよう害にはどんなものがあるかを本やインターネットで調べてみた。ヘレン・ケラーのように耳が聞こえずにしゃべることができない人、心をいためてしまって精神的な病気になった人、じんぞうにペースメーカーを入れたり、体の内臓などが正常にはたらかなくなった人。調べていくとどんどん

出てきて、ひよっとしたら見た目で分からないしよう害の方が多
いのかもしれないと感じた。

もし、そうだったとしたら。考えると不安になった。なぜなら、
見た目でしよう害者だと分かれば、何も言わなくても周囲の人た
ちが手助けしてくれるかもしれないが、見た目で分からない場合
だったらどうだろう。何か問題が起こっても、誰も気づいてあげ
られないかもしれないからだ。

今後きつと、ふだんの生活の中で、目に見えないしよう害を持
つ人と知らないうちに接する機会があると思う。自分に何ができ
るかは分からないが、まず、困っているような様子の人を見かけ
たら迷わずに思い切って声をかけるようにしたい。もしかしたら、
ほんの少しの勇気と小さな行動で、だれかの役にたてるかもしれ
ない。

僕の弟

僕の弟は生まれたときから自閉症です。自閉症は脳の障害です。自閉症にもいろいろあり、またその病気の重さも人によって違います。僕の弟「なず」は主に言葉を何度も言い続けたり、人のまねをしたり、おかしな行動をとったりします。歳が僕と一つしか変わらないはずは精神年齢が四〜五才ぐらいです。つまり、なずは同じ歳の子と同じようなことをするのがとても難しいのです。

なずはとても困り者です。まず、言うことを聞きません。何度注意してもやめなかつたり、しなかつたり、おまけに僕が注意すると逆に怒ってたいたりします。それでけんかになることもたまにあります。次に、同じ言葉を何度も言い続けたりするのもやっかいです。それが物の名前だったりならまだましですが、時に人の悪口を言うこともあります。それにより、相手に不快な思いをさせてしまいます。僕も悪口を言われますがだいたいぶなれてきました。昔はそれでもけんかすることがありました。これがまだ家の中ですが、もし、友達などに悪口を言ってけんかになったら困ります。しかも何度も言うので相手は余計に腹が立つと思います。まだそんなことはなかったですがこの先、そうならないともかぎりませんので心配です。

僕は昔、普通の家庭に生まれてたらこんな大変な思いをせずすむのにと思っていました。でも、今は、そんなこと思っていない。僕はなずが大好きです。どんな形であれ僕の弟です。それとしっかり向き合っていかなければなりません。

それになずにもすごいところがあるのです。なずは計算が得意です。かけ算やわり算は無理ですが、たし算、ひき算ならできます。五桁の計算も暗算で解いてしまいます。しかも早いです。計算だけじゃありません。記憶力もすごいです。そして、きつとなずには何かの才能があると思います。一度やりこんだらとても上達していきます。僕ができないこともできたり

高松市立牟礼中学校 三年 荒 颯希



します。僕はなずの才能を伸ばしてあげたいと思っています。僕こんな弟がいて嬉しいです。

でも、それ以上にもっと嬉しいことがありました。それは小学生のころなずの周りにはたくさんさんの友達がいたことです。皆なずのことを嫌ったりせず、「なつくん」と優しくしてくれました。今は養護学校に行っていて、なかなかその友達と会えませんが時々僕になつくん元気？と聞いてきます。そのとき僕は嬉しく思います。

世界中にはたくさんさんの障害者がいます。その人たちが気持ち悪いと思っている人もいます。でも、彼らには彼らのいいところがあります。彼らもそうなりたくてなったわけじゃありません。しかたがないのです。だから、彼らと真剣に向き合ってほしいのです。

香川県知事賞

香川県立高松南高等学校 二年 田渕 珠梨



理解を持つこと

私は高松南高校の福祉科に通う高校二年生です。福祉科に行くことと思っただけは、中学校の時に仲良くなった子に少し発達障害があり障害について興味を持ったことです。もっと福祉について学びたいと思い、福祉科を選びました。

高校に入って福祉科についてたくさん学ぶ中で分かったことがあります。それは、理解や知識がないことにより差別が生まれるということです。そのことが分かってから、もっと障害に対する理解を深めたいと思い、児童デイサービスのボランティアに参加してみました。しかし、最初は何をしたいのか分からず、話しかけても返事が返ってこなかったり反応してもらえなかったりして、戸惑うばかりでした。正直大変だなと感じました。三日間のボランティアで、一日目はほとんど何も出来ずに終わりました。二日目はコミュニケーションをとるのが難しい子の担当になり、一日一緒に過ごすことになりました。声かけの内容は理解できる子でしたが、反応があつたり無かつたりする状態で、ずっと不安でした。トイレも二、三時間おきに声かけが必要なのですが、なかなか私とは行ってくれず、他の職員の方と行くこともありました。自分と職員の方の何が違うのかなと考えた時、その子と純粹に向き合おうとする気持ちや職員の方にはあるということに気付きました。私は、自分の不安な気持ちで頭がいっぱいになって、その子の気持ちを考えて、向き合ったりすることができていませんでした。そこで先入観や自分の考えで決めつけず、もっとその子のことを知りたいと思えば相手は心を開いてくれるのではないかと考えました。三日目は、その気持ちを大切にコミュニケーションを積極的に取り、自分の顔を覚えてもらおうと思えました。その子のことを知りたいと思っている気持ちが伝わるように接しました。すると、ちゃんと問いかけにも答えてくれるようになり、トイレにも一緒に行ってくれるようになりました。とても嬉しかったです。

す。やはりその子と向き合おうとする気持ちが大切なんだと気付きました。その気持ちを大切にしようと思っただけから、だんだん他の子ども達とも距離が近くなったような気がしました。

三日間のボランティアが終わった後も、子ども達と関わってみたいと思います。現在は長期休業中にアルバイトとして施設に通っています。アルバイトをしているとやはり相手の気持ちや性格、障害への理解を持つことは大切だと感じています。自分の決めつけで相手を傷つけてしまうこともまだまだあります。だからこそ、もっと勉強し、たくさん自分自身で体験することで差別や偏見を無くしていきたいと考えています。

まだまだ世界には差別や偏見が残っていると思うし、そのために障害のある人が生きにくい思いをしていることもあると思います。もっと障害の無い人が理解を持つとすれば差別や偏見が無くなると思うので、障害のある人と無い人が交流できる場所を作りたいです。障害のある人が、たくさんの人と関わり、地域の中で暮らしていけるような環境を作っていきたいとボランティアやアルバイトを通して思いました。

私は九月から、学校の実習で障害者支援施設でお世話になります。今まで子どもたちと関わるが多かったのですが、相手の方と向き合うことで人間関係は作られると思うので頑張りたいです。

今、私には夢があります。それは特別支援学校の教員になることです。児童生徒それぞれの状況を良く出来るような先生になりたいです。将来地域で暮らす障害のある子たちが不自由なく生活できるように支援していきたいです。そのためには大学でもっと障害について学び、理解を深めていきたいです。障害のある人と無い人が共存できる社会を実現できるように特別支援学校の教員を目指していきたいです。



心のふれあいを通して

私には、足の障害がある。しかし、色々な人の思いやりのおかげで、今は楽しく暮らしている。ホテル、テーマパーク、デパート、色々な所へ行く機会が多かったが、思いやりの精神が欠けている場所はどこ一つなかった。

例えば、テーマパークには、ゲストサービスを受けつけている所がある。そこでは、私のように、長い行列に立って並べない障害者には、アトラクションの待ち時間を別の所で過ごせる仕組みが用意されていて、利用できる。私には大変ありがたい制度である。ホテルやデパートには、エレベーターが備えられている。そのおかげで、私は足に負担をかけずに移動することが出来る。他にも色々な施設に行っているが、様々な箇所で、障害に対する思いやり、対策が考えられているのだなと私は思う。

みなさんは、「バリアフリー」や「ユニバーサルデザイン」という言葉をご存じだろうか。これらにも、心のふれ合いが表現されていると思う。今では、点字ブロックや音声案内なども普及している。そこには、生み出した人の『障害があっても楽しく安全に暮らせるように』という思いが込められているように感じる。バリアフリーやユニバーサルデザインが広がれば、障害の有無に関わらず、安全に暮らしていける社会になっていくだろう。

しかし、それだけではまだ充分だとは言えないと、私は思う。視覚、聴覚、身体、知的、精神など色々な障害があるが、どの障害の人にも、実際の直接的なふれ合いが、人間として生きていく上では欠かせないのではないだろうか。

私のクラスには、知的障害のある子がいる。小三や小四の頃は、私の背中を押してきたり、頭を叩いてきたりと、迷惑に感じることもたびたびあった。そのたび、私はその子の目を見ながら、それは危ないこと、私が驚いたこと、それはしてはいけないことを伝え続けた。すると、高学年になるにつれて、迷惑に感じる行為

が減り、今ではほほしなくなってきた。その子は、押ししたり叩いたりしたら、相手は嫌な気持ちになっているということも分かり、学習してやらなくなっていくのだと思った。こういった経験は、実際のふれ合いを通して得られる貴重なものだと思う。

私が所属している特別支援学級には、他にも、大勢の仲間たちがいる。それぞれに障害の名前は違うけれども、一人一人が思いやりの心で関わり合い、実際に一緒に行動して、ふれ合う機会を多く持っている。そのような直接のふれ合いを通じて、お互いの心や気持ちにふれ合い、お互いを理解することができているように感じる。

障害がある人、ない人に関わらず、直接的なふれ合いを通じて、誰もが心安らぐ社会になつたらいいなと思う。



わたしの自まんのおばちゃん

わたしは、おばちゃんと紙に書いてお話をします。おばちゃんはわたしのおばあちゃんのお姉さんで、「ろうあ者」です。生まれた時から耳が聞こえなくて、話もできません。

初めておばちゃんに会った時、手話で何かを言っていました。何を言っているのか分からなかったのですが、どうしよう、何て話そう、いやだなとちよつとにげ出したい気持ちになりました。そしてらおばちゃんが、「初めまして。りこちゃんは何さいになったの?」と紙に書きました。わたしはふつうに返事をしました。おばちゃんに伝わったのでビックリしました。わたしの口の動きを見て何を言っているのか分かるのです。

ためにわたしも耳をふさいでお母さんに話しかけてもらいました。さっぱり分かりませんでした。おばちゃんはろうあ者じゃない人とも、なかよくなりたくて相手が話していることを聞きたくて、一生けん命口の動きをみて分かるようにいっぱいがんばったんじゃないかなと思います。

おばちゃんは、若いころしょうがいがあるのに家族も友達もない大きさに一人で仕事をしに行ったそうです。今は、ろうあ者の人たちが楽しくくらせるように、ろうあ者の会を作って、ボランティアの人をあつめていろいろな活動をするリーダーをしています。

わたしは、前に読んだ「ヘレン・ケラー」の本を思い出しました。いろいろな人に出会って、助け合っているんな事にチャレンジし

ました。おばちゃんも、しょうがいがある人となない人が助け合ってくらしやすい世の中にしたくて活動しているそうです。

お母さんに「聞こえなくても話せなくても、ちゃんと相手の顔と目を見ていれば言いたい事は伝わるよ」と教えてもらいました。わたしはたまに、よそを向いて返事をする事があります。その時、相手がどんな顔をしているのか知りません。だからこれからは、相手の顔を見て、話をするようにしたいです。おばちゃんと話す時も、大きく口を開けてゆつくりと話したいです。

学校で、手話の歌を習いました。今度おばちゃんが来たら、いっしょに歌いたいです。きつとおばちゃんは、よろこんでくれると思うので会えるのが楽しみです。そしてわたしも、おばちゃんみたいに何でもちようせんできるようになりたいです。

偏見のある世界

私は、スーパードクターなどで障害をもつ人を見て、こわいな、変だなと思ったことがあります。多分それは、この世界のほとんどの人が思うことだと思います。自分たちとは見た目がちがうから、目が見えない、耳が聞こえないから、そういつた理由から差別が起こったり、偏見をもつたりということがあります。私も最初はそうでした。見た目が変だから、近づかない方がいいかとも思っていました。だけど、学校でハンセン病について習って、正しい知識をもっているだけで差別が減ることを知りました。ハンセン病だけでなく、「聲の形」という映画を見て、その映画は、本当にあるような物語でした。耳の聞こえない少女をいじめ、そんな場面を私は実際には見たことはないけれど、ニュースなどで見たことがあり、自分がその立場ならと考える痛みました。私はその映画を見て、少しでも障害をもつ人のためにできることはないかと考えました。そこで私は、独学で手話を覚えようと思いました。インターネットで調べて覚えました。そこで私はもっと正しい手話を覚えたいと思いました。私の姉は、福祉関係の勉強をしていて、たまに、手話の本やDVDをもって帰ってきてくれて、私に見せてくれました。私はそのおかげで少しでも多くの知識をもつことができました。これから、いろんな障害をもつ人とふれあつて、もっと正しい知識をもちたいと思いました。

私は、将来手話講師になりたいと思っています。少しでも多くの人に手話を覚えてもらって障害をもつた人に自分たち以上の苦労をさせてしまっていたので、これからはそうならないように、皆が平等に暮らせる世界にしていきたいと思いました。

私は今、主に、聴覚障害について書きましたが、この世界には、他にも、皆さんがよく知っている身体障害や視覚障害などがあり

坂出市立東部中学校 二年 福島 奈瑠



ます。私もそこまで詳しくはないけれどたくさん障害があります。障害がある分だけ差別があつたりして悲しむ人も多いと思います。今、普通に過ごしている私たちは幸せです。でも、障害をもつた人も皆幸せかときかれるとそうではありませんよね。そんな社会は間違っていると思います。私は障害をもつた人でも幸せに暮らせる社会を作りたいと思います。少しでも多くの人に正しい知識をもってもらいたいです。日本では、障害をもつた人を差別したり、変だといったりする人が多いですが外国では、障害をもつた人はなんと言われているか知っていますか？外国では、「神から与えられた使命だ」と言われているそうです。日本と外国とはまったく違いますね。外国は日本と違って障害をプラスに考えています。日本では考えられないような言葉で私はびっくりして、すぐに友人などに伝えました。私は、こうすることで、このようなプラスな考えが増えていってほしいと思いました。差別が完全になくなることはないと思います。でも、差別を少なくすることは可能だと思います。それぞれ皆の考えはちがうと思います。それでも、マイナスな考えをもつ人の考えをプラスに変えていくことでも、差別などを少なくすることができると思います。少しでもたくさんの人に正しい知識をもってもらい、世界のすべての人が幸せになつてほしいと思いました。自分は、差別なんてしてないと思つても自分の知らない所で、もしかしたら、障害者を傷つけてしまう言葉を使つてしまつているかもしれません。皆さんもこの機会に自分の、言葉、行動などを考えなおしてみませんか。

笑顔に

ぼくは、小学四年です。ぼくの通う小学校では、四年生になると、西部ようご学校との交流学習をしています。ぼくのペアの友達に車いすを使って動いています。交流学習では、ぼくが車いすをおしてあげています。

初めての交流学習では、前の交流学習をしていた五年生も来ていました。その日は、五年生にいろいろなことを教えてもらいました。その時は、ぼくは何もペアの友達にしてあげることができませんでした。交流学習が終わりました。その後ぼくは、ペアの友達に何かしてあげられることはないか考えました。

そして、ぼくが考えたペアの友達にできることは、ペアの友達を笑顔にすることです。ぼくは、二回目の交流学習でペアの友達を笑顔にしようと思いました。

そして、二回目の交流学習ではオリエンテーリングをしました。オリエンテーリングでは、校内を回ってクイズをペアの友達とといて、ゴールをめざしました。

ぼくは、ペアの友達となかよく話したり、遊んだりして、二人とも笑顔ですぐすことができました。このことから、ぼくは、人を幸せにすることで自分も幸せな気持ちになるんだと学びました。そして風船バレーもしました。ルールはかん単で、みんなで楽しめるゲームでした。動かなくてもできるので、車いすに乗っているペアの友達もできるので、ペアの友達も楽しそうでした。

ぼくの学校とちがうところは、たくさんありました。たとえば、わたりろう下に信号機がありました。先生に聞いてみると、わたりろう下に信号機があるわけは、身近に安全に交差点の練習がで

観音寺市立常磐小学校 四年 高橋 十輪



きるように、わたりろう下に信号機があるそうです。

二期期の交流でも、ペアの友達を大切にしていきたいです。ぼくは、これからもペアの友達にできることを、どんどんさがしていきたいです。

世界中には、まだまだ、ぼくのペアの友達のような人たちがたくさんいると思います。だから、ぼくは少しでもそんな人たちの役に立てるようになっていきたいと思います。

ぼくは、交流学習で、ペアの友達を笑顔にすることを心がけました。ぼくは、他にもペアの友達にしてあげられることがないか考えました。そして、考えたのは、せっきよく的に声をかけてあげることです。次の交流では、ぼくはペアの友達にせっきよく的に声をかけることを心がけます。

そして、交流学習をするたびに、ペアの友達にしてあげられることを少しずつ多くしていきたいです。ぼくは、これからも交流学習でしたことを生かしていきたいです。

小学生
部門

審査員特別賞

普通寺市立西部小学校 一年 川本 雄心



ひいおばあちゃん

「かしこい、かしこい。ゆうしんちゃんはかしこいこや。」
 ぼくには、94歳になるひいおばあちゃんがあります。ひいおばあちゃん
 は、いつもぼくのことをこややとてほめてくれます。ぼくがいうことをき
 かなくて、わるいことをしていてもひいおばあちゃんはぼくをほめながら
 しかつてくれます。

ひいおばあちゃんは、みみがきこえにくくてほちようきというきかいを
 みみにつけています。さいきは、ほちようきをつけてもきこえにくいく
 ともあります。ぼくは、ひいおばあちゃんはどうせきこえないからと、「う
 るさい。」とか、「もうええわ。」とかいつてしまったことがあります。ひ
 いおばあちゃんはかなしそうなおをしていました。

ぼくは、みみがきこえにくかったらどんなきもちになるのか、かんがえ
 てみました。テレビのおとをけしてみてみました。こえがきこえないとだ
 いすきなテレビのアニメをみても、おもしろくないし、なにをいつてい
 のかきになっていらいらしました。ひいおばあちゃんがきこえにくくて
 はらがたつていらいらしているのを見たことがよくあります。こんなきも
 ちだったのだとおもいました。

ぼくは、どんなふうかというとひいおばあちゃんはわかりやすいのだから
 とかんがえました。ゆつくりいう、やさしくいう、うごきをつけてあらわ
 すなどがおもいつきました。

ひいおばあちゃんがおほんに「おほんだま」をくれました。ぼくは、か
 んがえたことをおもいだして、ゆつくりやさしいこえで、
 「ありがとう。」

「ありがとうございました。ひいおばあちゃんは、
 「かしこい、かしこい。ゆうしんちゃんはかしこいこや。」
 とにつくりながらいつてくれました。

ぼくはひいおばあちゃんにこれからもげんきでながいきしてほしいで
 す。やさしいひいおばあちゃん、ぼくがんばるよ。

小学生
部門

審査員特別賞

さぬき市立さぬき南小学校 二年 久米川 太陽



ぼくのおにいちゃん

ぼくのおにいちゃんは、お年よりのおせわをするしごとをしていま
 す。おふるに入れてあげたり、トイレへとつれて行ったり、お話をし
 て楽しませたり、いっしょにゲームをしたりしています。

おにいちゃんは、うまれてすぐに、頭のびよう気になり、少し手足
 がふじゆうです。小さいときから、何をしてもじょうずにできなくて、
 みんなとおなじことができるまで、じかんがかかっていたそうです。
 おちやわんのもち方や、はさみのつかいかたが、みんなとちがいで、い
 やなことを言われることが多かったそうです。

おにいちゃんが、中学生になると小学生たちにゲームなどをおしえ
 るジュニアリーダーになりました。キャンプをしたり、みんなであそ
 べるゲームをおしえたりします。ぼくもいっしょにつれていつてもら
 うことがあり、ゲームやキャンプでいろんなことをおしえてくれまし
 た。ようちえんの小さい子から、六年生の大きい子も、おにいちゃん
 がおしえてくれるゲームにむちゆうです。じかんもあつというまにす
 すんでいます。おわつても、おにいちゃんのまわりにはたくさんの子
 どもがいます。すごいです。

ぼくは、おにいちゃんがたくさんの子どもたちとあそんだり、お年
 よりのおせわをするのが、すごいとおもいます。うごけるからだがあ
 り、人を思う気もちがあると何でもできる。ほかの人とおなじことが
 できなくても、ほかの人にできないことができる人に、なっているお
 にいちゃんがぼくは大すきです。

九月には、おにいちゃんといっしょに、子ども会のキャンプに行き
 ます。今から、どんなことをするのか、楽しみです。

2017

優秀作品集

心の輪を広げる体験作文・障害者週間のポスター

中学生
部門

香川県知事賞



観音寺市立観音寺中学校 三年 白川 美姫



小学生
部門

香川県健康福祉部長賞



丸亀市立垂水小学校 三年

中村 彩乃



小学生
部門

香川県健康福祉部長賞



高松市立古高松南小学校 三年

川西 琢仁



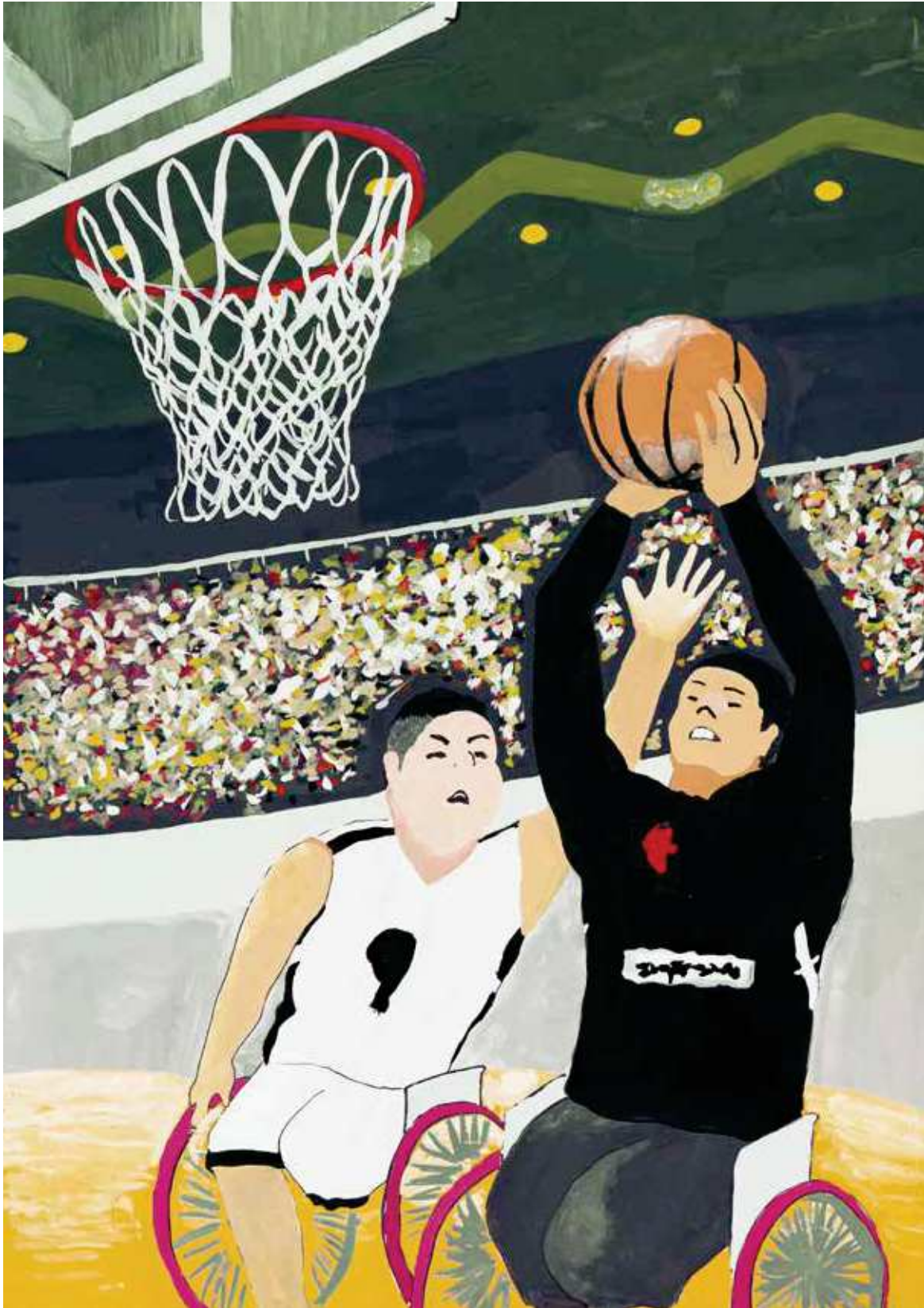
2017

優秀作品集

心の輪を広げる体験作文・障害者週間のポスター

中学生
部門

香川県健康福祉部長賞



観音寺市立観音寺中学校

三年

石井

智也



2017

優秀作品集

心の輪を広げる体験作文・障害者週間のポスター

中学生
部門

香川県健康福祉部長賞



観音寺市立観音寺中学校

三年

塩津

ひなの



小学生
部門

審査員特別賞

高松市立鶴尾小学校

二年 知念 樹音

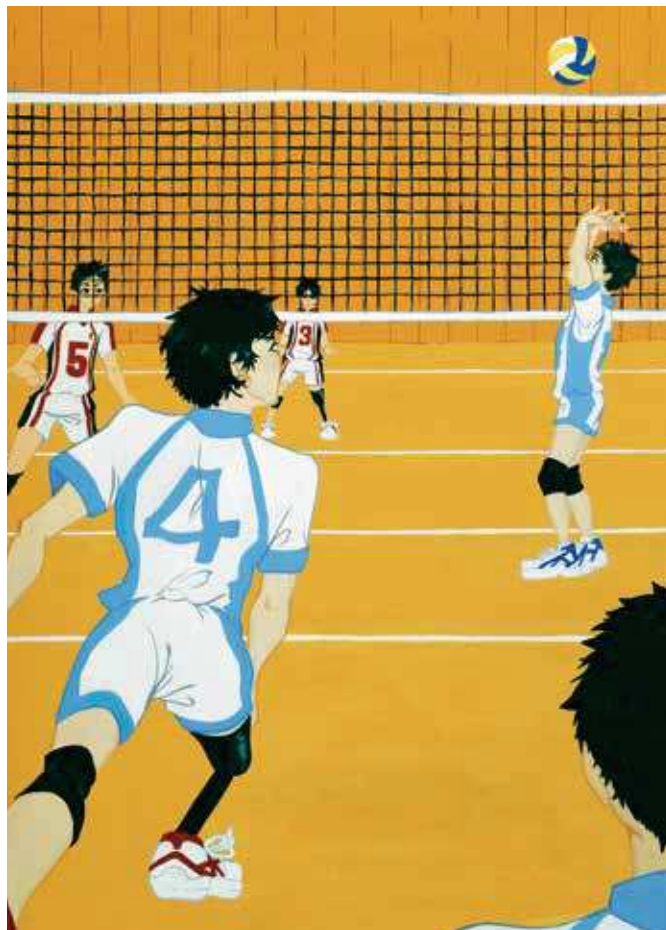


中学生
部門

審査員特別賞

観音寺市立観音寺中学校

三年 藤田 洋海



2 0 1 7

優秀作品集

心の輪を広げる体験作文・障害者週間のポスター

香川県 健康福祉部 障害福祉課

〒760-8570 香川県高松市番町四丁目1番10号